

九州ネット

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

佐賀県開催

<むつごろうラウンド>



H30.5.12(土) 佐賀市立神野小学校



全国学校体育研究大会佐賀大会を控え、県内外からたくさんの先生方に御出席いただき、大変有意義な時間となりました。初めて参加させていただきましたが、単元構造を用いた授業づくりでの意見交流では温かく受け入れていただき、気軽に質問したり相談したりすることができました。

今後の体育授業づくりに向けて、貴重な勉強になりました。

1 全国大会に向けた研究概要と取組報告

はじめに、全国学校体育研究大会佐賀大会に向けた研究の概要とこれまでの取組について、佐賀市立神野小学校の真崎芳洋先生と佐賀市立新栄小学校の吉田宗平先生、田中孝先生から報告がありました。

神野小学校の報告では「児童の欲求を大切に」した授業を行われていました。5年生のハンドボール、6年生のソフトバレーボールの実践では、準備運動から自分たちのチームに応じたメニューを選択させたり、困ったことを出し合ってクラスの特別ルールを作ったりと、子供たちの主体性が重視されていました。また、「発見タイム」という気づきが生まれる時間を設け、友達のがんばりや良い動きをクラスで共有できるようにされていました。

新栄小学校の報告では、運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に運動に親しむことをテーマとし、「できた、わかった、かかわった→楽しかった」を毎日の授業や単元全体を通して味わわせることを目指されていました。こちらも「したい、知りたい、元気でいたい」という子供たちの欲求を、運動の特性(競争、達成、表現)に合わせて実現することを大切にされていました。陸上の「8秒間走」の実践では、子供たちが思考していくであろう流れを教師があらかじめイメージし、技術のポイントとなる視点を与えながら記録(距離)に挑戦していく授業を仕組まれていました。



2 単元構造図を用いた授業づくり

桐蔭横浜大学の佐藤豊先生からの説明後があり、グループに分かれて単元構造図を用いて単元づくりを行いました。まず、学習指導要領から目標、内容を抜き出します。そして、単元のだすじの中に配置していき、「この時間ではこの内容を行い、これを評価する」という単元の計画を立てていきました。一つの表に表すことで単元全体を見ることができ、内容や評価を記載した付箋を動かすなど、試行錯誤しながら話し合うことができました。その際、紙面上で計画はしたものの場の設定や運動量などを考慮すると「実現可能か」という課題も出てきて難しさを感じました。



私のグループで、特に議論となったことが評価でした。1時間で評価することはたいへんなことですが、「今日はここを見る」という視点を持ち、学習活動を設定することが大切だと感じました。

3 情報交換会

少ない人数ではありましたが、今年度開催される第57回全校学校体育研究大会佐賀大会や全国の旨いお酒の話等を肴に盛り上がり、楽しいひとときとなりました。最後はおなじみの「パフェ」で終了！来年度も楽しみにしています。

最後になりますが、御多忙な中、県内はもちろん遠方からも御参加いただきました先生方、本当にありがとうございました。全学体研佐賀大会、一丸となってがんばりたいと思います。皆様のお越しをお待ちしております。

(報告：佐賀市立西与賀小学校小学校 小浜 竣輔)